

リトアニア月報 2023年10月

在リトアニア日本国大使館

※本月報は月末現在の公開情報等を大使館で取りまとめたものです。

10月の振り返り

- リトアニアは、10月に入り急速に冷え込み、美しい紅葉と落ち葉の季節となり、大使館前の並木の下も、落ち葉の絨毯に埋もれました。
- 今月は、7日に起きたハマスによるイスラエルへの大規模テロ攻撃の影響で、安全保障上の議論が高まりました。リトアニア議会本会議初日の10日は、イスラエルの犠牲者への黙祷とハマス非難決議から始まり、中旬にはバルト三国の外交委員会の委員長達がイスラエルに飛び、ウクライナとイスラエルに対するロシアとイランの行動を非難する宣言に署名しました。ランズベルグス外務大臣は、この事態と世界のリアクションを受け、次のような趣旨の印象的な発言をしました。「ウクライナ問題は我々の最優先事項である。ウクライナ問題は21世紀の全ての紛争の生みの親であり、もし我々がウクライナの領土統合と独立を保全できなければ、(イスラエル問題含め)世界は正常に復帰することは困難だろう」。
- また、月初に発生したフィンランドとエストニアを結ぶガス・パイプラインおよび通信ケーブルの破損事故が、外的要因により発生した可能性が高いということで、クライペダ港のLNGターミナル等の重要インフラの防護を更にアップグレードする議論が活発となりました。また、社会的には、イスラエルの惨事の直後から大部分が露語による偽りの爆破予告の脅迫メールが、政府機関や、企業、学校等に大量に送られる状況が数日間続きました。
- 今月は日本・リトアニア間の往来も活発となりました。月初にはアルモナイテ経済イノベーション大臣が訪日し、京都のSTS年次総会への出席や、JETROとのMOC調印式等が行われ、中旬には国防副大臣が韓国経由訪日し、日本の防衛審議官との間で「日本国防衛省とリトアニア共和国国防省との間の防衛協力・交流に関する覚書」を締結、月末には、チュミリーテ・ニールセン議会議長が台湾経由訪日し、額賀衆議院議長・長浜参議院副議長・中曽根日里友好議連会長等と戦略的パートナーシップ宣言丁度一周年という中で今後の両国議会委員会連携の充実を訴えました。このように、経済、安全保障、議会連携等を包括的に含むリトアニアのインド太平洋戦略が、東アジアの台湾、韓国、日本で積極的に具体化されました。また、インド太平洋関連では、外務大臣は月後半にベトナム、シンガポール(リトアニア大使館開所式含む)、インドネシアを歴訪、ナウセーダ大統領もオーストラリアを訪問し、経済に加えてサイバー分野での連携も議論されました。
- また、日本企業の当地訪問としては、静岡県浜松市に本社を置くローランド・ディー・ジー社がリトアニアに高度な印刷技術をもつDG DIMENSE社を創設し、署名式と式典が華々しく行われました。
- 文化面では、中旬には2年連続3回目となる小丸成洋在福山リトアニア名誉総領事(福山通運社長)主導の直行チャーター便が約200名の陣容で来訪、小丸名誉総領事は、短期間でしたが官房長官や友好議連等とのミーティングやカウナスでの日本語スピーチコンテスト等を精力的にこなされ、両国の経済・文化・教育面の絆が一層強まりました。また訪日したチュミリーテ・ニールセン議会議長は、岐阜県で12月下旬まで開催されている日本最大級のリトアニアの魅力

発信フェスティバル「リトアニア NOW2023」の開幕式にも出席しました。

- またシャウレイ市では、杉原千畝生誕 120 年の 2020 年から始まった桜植樹式が今年も行われ、日本リトアニアの国家関係 101 周年を記念して、既にあった 60 本の桜に今回 41 本の植樹を加え、101 本にするという大きな企画が実現されました。
- 大使館イベントとして、当地初の自衛隊記念日レセプションを開催、国防副大臣、議会国家安全保障・国防委員会委員長他、各国大使、駐在武官団等多数の参加を得て、日本の防衛政策や自衛隊の現状等についての理解が促進されました。またレーザーの Brolis や三菱電機、三菱商事等も参加、民間レベルのネットワーク化も図られました。

駐リトアニア日本国大使
尾崎哲

－内政－

4日 祖国同盟がシモニーテ首相を同党の次期大統領候補に選出した。シモニーテ首相は、多数擁立されるであろう「急進的な左派」の候補者を批判し、自身を「消して急進的ではない親欧州右派」の代表であると評した。(BNS)

18日 種々のリトアニアの機関、会社及び団体に、ロシア語の爆破予告のメールが届いた。メールは、およそ2,000のアドレスに、5つの異なるアドレスから送信されたとリトアニア警察局は報告した。(BNS)

23日 国際移住機関(IOM)ビリニユス・オフィスは、外国人のための情報センター(MICenter)を開設。MICenterは、今年はウクライナ人の相談を受けつけ、リトアニア在住の他の国籍の外国人は来年から利用可能となる。リトアニアには現在20万人以上の外国人が居住している。(ELTA)

－外政－

3日 リトアニア、ポーランド及びウクライナの農業大臣がオンラインで会合を開き、ウクライナから輸出される農産物の検疫手続を、ウクライナとポーランドの国境からクライペダ港に移管することで合意。検疫手続はリトアニア国家食品獣医局(VMVT)が実施するとリトアニア農業省は述べた。(ELTA)

5日 ナウセーダ大統領が、スペインのグラナダで開催された第3回欧州政治共同体(OPE)首脳会合に出席。欧州の首脳とウクライナへの支援と安全保障問題について協議した。ナウセーダ大統領は演説で、「我々はロシアの攻撃に反撃し、戦争が課している安全保障、

経済及び社会における問題に取り組まなければならない」と述べた。(BNS)

9日 ナウセーダ大統領は、イスラエルに対するハマスの無差別攻撃を非難し、「我々は完全にイスラエルを支援し、犠牲者の家族に心からお悔やみ申し上げる。イスラエルは防衛の権利があり、人質に取られたイスラエル人は即時解放されなければならない」と述べた。(ELTA)

16日 ランズベルギス外相は、ラトビアのカリンシュ新外相と面会。地域の安全保障の問題と、ウクライナの闘いに対する継続的な支援について協議した。また、両国の外相は、ハマスによるイスラエル攻撃を非難し、ランズベルギス外相は、「イスラエルは、国際人道法上の原則に従い、自国を防衛する権利を持っている」と述べた。(BNS)

19日 オーストラリアを訪問中のナウセーダ大統領は、キャンベラでオーストラリアのアルバニー首相と会談。ナウセーダ大統領は、北大西洋と太平洋地域の安全保障は密接に連動しており、そのため NATO とオーストラリアが結束し、パートナーシップを拡大し続けることが不可欠だと強調した。(リトアニア大統領府発表)

19日 シモニーテ首相がアルメニアを訪問し、パシニャン首相と会談。シモニーテ首相は、「外交交渉による南コーカサスの正常化と恒久的な平和の実現を心から望んでいる。平和への道は容易ではないが、アルメニアとこの地域全体の安定と繁栄を達成する唯一の道である」と述べた。シモニーテ首相はまた、ア

ルメニアが非常に困難な時期を迎えていることについても言及した。(リトアニア首相府発表)

23日 22日から25日にかけてチュミリーテ・ニールセン議長が台湾を訪問。同議長は、リトアニアは同じ価値観を共有する台湾との結びつきを重視しており、国際法に基づく世界秩序に亀裂が生じ始めている現在、民主主義国家間の協力は特に重要であると述べた。また、リトアニアは、半導体、レーザー技術などの高付加価値分野において台湾を貴重なパートナーとして見ている。(BNS)

24日 リトアニア外務省は、ロシアのウラジミールにあるリトアニアの元外務大臣レイニス大司教の記念碑が破壊されたことに対して、リトアニアのロシア臨時代理大使を同省に召喚し、抗議文を手交した。(リトアニア外務省発表)

25日 ランズベルギス外相は、ベトナムを訪問し、ブイ・タイン・ソン越外相と会談。ランズベルギス外相は、ベトナムはインド太平洋地域における主要な同志国のひとつであると述べ、リトアニアとベトナム両省の間でより緊密な協力関係に向けた覚書が締結された。(リトアニア外務省発表)

27日 チュミリーテ・ニールセン議長は訪日し、額賀衆議院議長、長浜参議院副議長及び中曽根日リトアニア友好議連会長と会談した。会談では、戦略的2か国間・インド太平洋地域パートナーシップと安全保障の構築に焦点が当てられた。チュミリーテ・ニールセン議長は、「リトアニアはルールに基づく世界秩序を強化

し、その地域の国々との関係を発展させるためのインド太平洋戦略の中で、日本を重要なパートナーとして見ている」と述べた。(リトアニア議会発表)

27日 ランズベルギス外相は、シンガポールを訪問し、バラクリシュナン外相と会談。ランズベルギス外相は、「リトアニアのインド太平洋戦略において、シンガポールはASEANの志を同じくするパートナーである」と述べた。また同外相は、シンガポールのリトアニア大使館を正式に開設した。(リトアニア外務省発表)

30日 リトアニア、エストニア及びラトビアの議会外交委員長が、トルコ大国民議会外交委員長の招待で、アンカラを訪問。今次訪問は、トルコ共和国建国100周年の枠組みで行われた。スウェーデンの NATO 加盟がバルト三国にとっても安全保障上の課題であるという問題意識につき意見交換が行われた。(リトアニア議会発表)

–安全保障・防衛–

19日 トウチュクテ国防副大臣は訪日し、芹沢清防衛審議官と会談。防衛協力・交流に関する覚書に署名した。両国は、サイバーセキュリティ、ハイブリッド脅威対策、防衛技術、及びその他の防衛協力分野に関して、定期的な政治・専門家協議、経験や専門知識の交換を行うことで合意した。(ELTA)

20日 フィンランドの警察当局は、今月初めに起こったフィンランド・エストニア間のガスパイプラインの損害について、中国船によるサボタージュの可能性を調査していると述べた。香港の旗を掲げた船の動きがパイプラインの損

傷の時間と場所に一致しているという。(BNS)

ー経済ー

5日 2日から5日にかけてアルモナイテ経済イノベーション大臣が訪日。同大臣は国際協力銀行(JBIC)の前田会長と面会し、同銀行がリトアニアの革新的スタートアップへの投資を開始する可能性について協議した。同大臣はまた、河野デジタル大臣と会談し、公共部門のデジタル化におけるリトアニアの経験と、リトアニアのIT企業が日本市場で事業を展開し、デジタル化サービスの提供する機会について説明した。(リトアニア経済イノベーション省発表)

16日 クリシュチュナス第一副官房長官は、韓国のSKハイニック社のCEOらから成る韓国の特別使節団と面会し、2か国間の経済協力について議論した。クリシュチュナス第一副官房長官は、「韓国はリトアニアの重要なパートナーである。我々は韓国のビリニユスに大使館を開設するという決定を歓迎する」と述べた。(ELTA)

20日 2022年度末のリトアニアの海外直接投資は、前年から10.2%増の299億ユーロであった。投資額が最大の地域は、220億ユーロのビリニユス市で、31億ユーロのカウナス市が続いた。(BNS)

24日 国際的スタートアップ・アクセラレーターである米企業のプラグ・アンド・プレイ(Plug and Play)社の中東欧地域マネージャーがビリニユスを訪問。同社は、今後3年間で45社のリトアニアのスタートアップに590万ユーロを投資予定。また同社は、2026年3月までに5

回のアクセラレーション・サイクルを実施し、計60の企業を育成することを目標としている。(BNS)

24日 台湾を訪問中のチュミリーテ・ニールセン議長は、台湾の立法院議員を前に、リトアニアが高付加価値経済を目指しており、台湾と提携する用意があることを強調した。同議長は、リトアニアはレーザー、ライフサイエンス、サイバーセキュリティ、金融技術、エンジニアリング及び自動車産業に関心を寄せていると述べた。(ELTA)

24日 台湾を訪問中のマルケヴィチエネ財務副大臣は、フィンテックの国際フォーラム「Fintech Taipei 2023」に参加。同副大臣は、台湾の投資家や金融セクターにリトアニアに進出して活動を展開するように呼びかけた。(リトアニア財務省発表)

30日 ランズベルギス外相はインドネシアを訪問。同外相は、インドネシアの経済担当調整大臣との会談の後、「2か国間貿易が増加していることを喜ばしく思う。ハイテクからエネルギーセクター及び食品産業まで、リトアニアの企業はインドネシアに進出する用意がある」と述べた。(BNS)

31日 アルモナイテ経済イノベーション大臣は、リトアニアの投資環境の向上を目指した法案に対する2点の修正案をリトアニア議会に提出する。大きなプロジェクトのための新基準を設定し、法人税の減税を適用することを提案する。(ELTA)

－エネルギー－

26日 リトアニア議会で天然ガスに関する法律が改正され、全ての輸送手段によるロシア産 LNG の輸入、取扱い及び再ガス化が禁止された。ジリエネ・エネルギー副大臣は、ロシアの LNG はポーランドからタンクローリーでリトアニアの再ガス化施設に運ばれていたと述べた。(BNS)

27日 クレイヴィース・エネルギー大臣は、リトアニアが2050年までにエネルギー輸出国となるシナリオを発表した。同大臣は、「このシナリオでは、水素と余剰電力を最大限に利用し、合成燃料など、より付加価値の高い炭素製品を生産する」と述べた。(BNS)

－運輸・通信－

2日 スクオディス運輸通信大臣がサウジアラビアを訪問。運輸及び物流におけるより緊密な協力機会について、サウジアラビアの大臣や企業の代表らと議論した。同大臣は、リヤドで開催された万国郵便連合大会議に出席した。(ELTA)

11日 ヴァイツェカピチウテ運輸通信副大臣が京都で開催された IGF フォーラムに参加。同大臣は、総務省の吉田総務審議官と面談し、5G 応用のための新技術の推進と規制における課題、及びリトアニアと日本の電気通信イノベーションにおける協力の可能性について議論した。(在日本リトアニア大使館フェイスブック)

－日本関係等－

1日 杉原ハウスは、ユダヤ遺産の保護を支援する団体であるロスチャイルド財団、リトアニア文化評議会への申請書を準備中である。資金援助が得られれば、来年1月からリノベーション工事が開始され、年末までに改装された展示が一般公開される予定。リトヴァク(リトアニアのユダヤ人)出身のアーティストであるジェニー・ガガン氏が企画しており、よりインタラクティブな展示を目指すという。(LRT)